

### 夢のスイートに泊まれるチャンス

「ユインチといえば温泉」というくらい、源泉かけ流しの「天然温泉さしぎの猿人の湯」は県民に広く親しまれている。茶褐色の源泉にはメタケイ酸やカルシウム、ヨウ素、鉄や栄養塩類が多く含まれ、湯上がりの肌はしっとりすべすべしていつまでも温かい。

アネックス8階のロイヤルスイートには、この「猿人の湯」が引き揚げられているのが大きなインセンティブだ。石張りの浴槽に張られた温泉を独り占めしつつ、ほぐれた身体を天蓋付きの広いベッドに投げ出せたら：浮世の憂さもどこかへ飛んでいってくれるに違いない。

普段ならばお財布と相談してしまう「ワンランク上の贅沢」も、GOTOトラベルキャンペーンのおかげで手が届きやすくなっている(22P参照)。これまで「絶景に建つホテルは観光客のもの」と思い込んでいた人たちが、県民が県内に泊まりに行く「マイクローリズム」の楽しさに気が付き始めたのは、良くも悪くも

コロナが引き起こした生活変容の一つといえるだろう。

「ああ、いいお湯だった！」湯上がりのちひろさんは、白い肌を桃色に染めてお冷やをおいしそうに飲んでいる。マーケティング部の大工定恵さんがニコリ微笑んでささやく。

「ロイヤルスイートのアメニティー、MIKIMOTOはリラックスできる香りでお客様に喜ばれています」

美肌の湯に何度も浸かり、ワンランク上の化粧水で肌をうるおすストレスの多かった一年がリセットできるのなら、そんな贅沢を自分に許してあげるのも決して罪ではないだろう。



ラウンジタイムは午前9時から午後6時まで

「はあへ、極楽…」うっとり顔のちひろさん



絶景を見下ろす64㎡の客室



MIKIMOTOのアメニティー。上質な香りで癒しを

### 絶景を眺めながらテレワーク

1年の中でも一番忙しい12月。師走とはよく言ったもので、仕事や学業のことをすっかり忘れて骨休めしたくても、チームワサワサ：やらなきゃいけないことが頭を巡る。

今回同行してくれたFECオフィスのちひろさんもまた、医学研究科の博士課程が大詰めを迎えた現役の大学院生だ。いつもノートパソコンを持ち歩き、忙しいタレント業の合間を縫って論文作成に余念がない。

ユインチホテル南城は今年7月、本館6階の展望ラウンジ「感謝」を全面的にリニューアルした。これまでは眺望絶佳のレストラン&バーだったところを、仕事

をしながらリフレッシュできるリモートワークスペースに一新したのだ。宿泊の場合は利用料無料、外来の場合は1時間1100円(税込)。フロントでカードキーを受け取り、セキュリティ対策万全のWi-Fiや複合機が完備した環境で、水平線を眺めながらテレワークに勤しめる(これは捗るはず!)。いま注目のワーケーション(Work+Vacation)を堪能できる、県内でも貴重なスポットなのだ。

ラウンジを後にして向かったのは、アネックス8階のロイヤルスイート。ユインチが2室だけ用意した、天然温泉に入り放題のスペシャルルームだ。



ドリンクや軽食はセルフサービスで



通信環境も安全・快適!

コピーやスキャン、FAXなどは複合機で



マーケティング部の大工定恵さん



猿人の湯



天蓋付きの広々ベッド